

「小鳥と鏡 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

(2019 年春の記録)

北軽井沢にある山荘では、さまざまな遠隔観測を行っている。メインは浅間山の観測だが、野鳥の遠隔観測にも力を入れ、理科の授業でも活用している。



餌がなければ野鳥は来ない。ヒマワリの種子を塔型の給餌装置に入れ、一番下の小さな穴から小鳥が餌をとれるようになっている。晩秋から春先にかけて、野鳥の餌になるチョウやガの幼虫が少ない時期は、大変な量を消費するので、一回に約 2 kg の餌を補給できるように設計してある。それでも 2 週間ぐらいで空になってしまう。

餌台のそばには、そこに遠隔操作可能なカメラを設置しており、東京からすべて遠隔操作で撮影ができるようにしてある。



一番よく来るのは「シジュウカラ」だ。この野鳥は、日本全国、都会から高原まで、さまざまな場所で見られ、恐らくスズメよりも適応能力が高い。人工的な巣箱にもよく営巣するので、観察しやすい野鳥だ。



ヤマガラもよく来る。「山雀」の名の通り、山地を好む野鳥で、羽色が目立つので、見間違えることはまずない。ほかのカラ類とうまく共存しているが、一つの巣の「居住権」をめぐる、シジュウカラと大喧嘩をすることもあつた。



ゴジュウカラもよく来る。くちばしが長く、一回に種を二個持ち去ろうとする。このゴジュウカラが、鏡の前でとても面白い行動を見せた。